

担い手

連携

多世代交流

福祉

神奈川県内の地域情報を紹介する

# 地域のわ通信

発行 ▶ 区政推進課 地域力推進担当 411-7026

不登校と学校に行きづらい子の親の集い

## はなまといる



▶イベント「わが子の不登校どうしたらいいの？きっと大丈夫！」には、会場を埋め尽くす大勢の参加者が集まった(昨年の活動)

### ■不登校の子どもを持つ親同士が出会い、語り合う場の必要性

団体名である「はなまといる」という聞きなれない言葉には、不登校の子どもを見守る親たちが、自分らしく気持ちを出せる場、情報交換ができる場、元気になれる場をつくりたいというメンバーの思いが込められている。

言葉の「はな」には、みんなで話（はな）し合い、自分を開放させる・放（はな）すものという意味と、家庭の中の花（はな）になるという意味も加えた思いを表現し、「まといる」には「円・居る」車座になる・団らんするという意味がある。

小・中学校における不登校児童生徒数は平成30年には約16万人に達し、前年度より2万人ほどが増加しており、過去5年間、その数は増加傾向を示している（平成30年文部科学省調査結果）。

「はなまといる」は、この現状で悩む当事者の親同士の力で元気になれる場を作ろうと、2016年から活動の準備を進め、2019年からかながわ

地域支援補助金を得て本格的に活動を始めている。

「不登校の理由はさまざま。決して悪いことではないのですが、子どもの不登校に直面する親は、どうしていいのかわからず、迷い悩み、親子で元気をなくしがちです。先の見えない不安や焦りもあります。親自身が助けを求められなかったり、子どもに適切な関わりができなくなることもしばしばです」というのは、当事者の親でもある運営メンバー。さらに「子どもや親にとって家庭を安心の場にするためには、親自身が安心して自由に語り合えて、情報交換をする場が必要なのです」と活動への思いを語る。

### ■同じ悩みを持つ親同士だからこそ分かり合える

活動のきっかけは「はなまといる」とは別の地域活動で、もともと知り合いだったメンバーの複数人が、子どもの不登校に直面したことにある。活動の合間に、同じ悩みを持つ親同士が語り合う



### ▶参加者の話題が尽きない「親の集い」

ことで気持ちが落ち着いた経験があった。「地域の中には、誰にも胸の内を語れず苦しんでいる私たちのような親がいる」という思いから、地域活動で知り合った7人で「はなまとい」の活動をスタートさせた。

活動初年度の昨年度は、不登校の親の集いを2カ月おきに開催し、不登校問題に詳しい講師を招く講演会を実施した。

講演会「わが子の不登校、どうしたらいいの？きっと大丈夫！」では、西野博之さん(※)を講師に、不登校の現状や不登校に直面している子どもの心と体の変化、それを見守る大人の心得などについて話を聞いた。会場を埋める約70名の参加者は、熱心にメモを取り、時に涙している場面もあり、悩みの深さに気づかされる。

この講演会では、参加者が自由に参加できる交流会を設けていた。親同士は、日頃抱えている思いを共有し、地域の人同士は、互いの活動を紹介しながらつながる姿が見られた。

活動の核となる「親の集い」では、毎回10名ほどが参加し、互いの経験や思いなどをゆっくり語り合う場として、「話してもいい、聞いていてもいい、自分のスタイルで大丈夫」のスタンスを大事にしている。

参加者からは「同じ不登校を持つ親と出会えてすごく気持ちが楽になりました。苦しい気持ちを伝えあったり色々な情報交換もでき、また前を向いて頑張ろうと思える大切な時間になっています」「この場所があることが、私の支えになっています。緩くしなやかにつながっていられることが、とても心強いです」などの感想が寄せられている。

## ■地域の中で不登校の理解を促し、子どもや家庭を見守る環境づくり

今年度の活動は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で予定していた講演会は開催できず「親の集い」のみ6月から再開している。開催回数を月1回に増やし、横浜市教育委員会に「親の会」として登録もした。

「親の集い」の中では、不登校に直面している子どもの気持ちを学ぶ書籍を紹介しあったり、進学・進級に関する情報を交換しあったりと時間が足りないほど。

「集いがなかった数か月は、心のモヤモヤが晴れず、この集いのありがたさを痛感しています」と、参加している方は言う。

親が語り合う場があることで、親自身が不登校の子どもに寄り添える心の余裕を保つことにつながっているようだ。

これからの活動については「これからも子どもに寄り添った理解や支援を求めながら、子どもや家庭を見守る環境づくりにつながる活動を進めていきたいです。そのためにぜひみなさんの力を貸していただけたらありがたいです」と、「はなまとい」のメンバーは口をそろえた。



▶「はなまとい」の運営メンバーの大森さん(写真右)と東田さん(写真左)、鈴木さん(写真中央)

### (\*) 西野博之さんのプロフィール

1986年より不登校・ひきこもり傾向の若者、さまざまな障害のある人たちとともに地域で育ちあう場を設けている。認定NPO法人フリースペースたまりば理事長、川崎市子ども夢パーク所長、フリースペースえん代表、川崎若者就労自立支援センター「ブリュッケ」総合アドバイザー、精神保健福祉士、早稲田大学・神奈川大学非常勤講師。